

■研究推進委員会 活動計画書

提出日：2024 年 11 月 30 日

名 称	街路樹研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：川口将武（大阪産業大学） 連絡先 e-mail アドレス：masa@edd.osaka-sandai.ac.jp
幹 事	氏名（所属）： 高林 裕（京都府立大学） 連絡先 e-mail アドレス：takabayashi.y03@gmail.com
その他 構成員	氏名（所属）： 加我宏之（大阪公立大学大学院） 赤澤宏樹（兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館） 小宅由似（香川大学大学院） 平林 聡（The Davey Tree Expert Company／米国農務省 Forest Service） 福井 亘（京都府立大学大学院） 當内 匡（(株)庭樹園） 宮本脩詩（(株)パスコ） 山田 匡（E-DESIGN） 守 宏美（兵庫県） 安田卓宏（(株)日比谷アメニス／吹田市花とみどりの情報センター） 井上雅裕（京都市役所） 野上一志（(株)野上緑化） 石井匡志（(株)アゴラ造園） 石出慎一郎（東洋緑化株式会社） 清水謙治（(一社)日本造園建設業協会） 関澤 澄（船橋市役所） 植地俊輔(京都府立大学大学院） 森岡千恵(日本工営（株）） 問い合わせ中：東京都、仙台市
目 的	我が国における街路樹文化は古より存在していたが、近代街路樹として植栽が街中に導入されてから 100 年以上が経過した。長い時間を経過した街の街路樹は都市基盤整備を中心として、昭和から平成にかけての環境基準、都市景観として植栽されたものが多い。長い時間を経て培ってきた街路樹植栽の現在の状況を見ると、街の品格や文化への醸成には程遠い街路樹が多くみられ、街路樹の管理についても残念ながら不健全な街路樹が多くみられる。街路樹は、適切に管理されることで、街の景観向上、人への健康に対する寄与、生物多様性の向上など良好な点が様々見られるが反対の点も多くある。例えば、大径木化や落枝による安全性の問題、落葉による住民負担や苦情、管理が出来ていないことでの不健全な樹木状況など諸問題が存在する。さらに、管理に関わる運営費も年々かさばることから、街路樹其のものを伐採し、無味乾燥な街路空間になっている通りも散見される。街の文化や潤いといったものに寄与する街路樹の現状を考える中で、今後求めるべき管理運営はどう進めることが良いのか、良好な街路樹育成はどう進めていくべきなのか考えることは極めて重要である。 我が国は人口増減に対応した都市集約の時代になり、街路での主役は歩行者に戻りつつある中、街路樹の果たす役割は大きい。本研究推進委員会では、街路樹の功罪を探究しつつ、身近に目にする街路樹について、国内外の先進的な取り組み事例を含め、新たな街路樹のあり方、方向性を指し示すことを目的としている。
活動計画 及び	第 1 期の 2 年間は街路樹のあり方について、産官学の構成員それぞれの立場から意見交換を行い、街路樹に関わる大まかな社会的潮流、諸課題、街

想定される 成果 (1年目)	路樹の価値について大きく把握できた。これらを踏まえて、3つの部会（見取り図部会，計画・技術部会，価値効果（生態系サービスや経済性）部会）を立ち上げ活動方針を立て基盤づくりをしつつある。そこで第2期の1年目は，部会ごとに活動を実施することで，見取り図部会は街路樹全体に関わる課題の整理や全体を俯瞰するような提言を出すための準備を，加えて計画・技術部会，価値効果部会は街路樹の最適化に向けた指針（ガイドライン）やマニュアルづくりの準備を進める。 また、日本造園学会全国大会でも上記の活動をふまえたミニフォーラムの開催をおこない、会員と研究成果について共有を図ることを1年目の成果としたいと考えている。
(2年目)	この年度においては，1年目の成果を踏まえて，部会ごとの議論を深めそれらの成果を報告書にまとめる。さらにその成果内容を自治体等での実用化に向けて発信、普及できるよう指針（ガイドライン）やマニュアル等の制作の可能性と課題について検討する。